



常呂川森林ふれあい推進センター

1月14日、北海道立青少年体験活動支援施設「ネイパル北見」の要請を受け、「ネイパルde学ぼう！冬休みキャンプ」に参画しました。

これは、「仲間と協力して学習や自然体験活動を行い、学習習慣の定着や学習に対する興味・関心を高める。」ことを目的として開催されたもので、オホーツク管内の小学生（3～6年生）20名が集まり、当センターでは、動物の足跡や樹木が冬を

教育機関との連携

常呂川森林ふれあい推進センターでは、森林環境教育に携わる教育機関と連携した取組み、森林ボランティア団体や企業の活動支援・技術指導等を行っています。

今回は、「ネイパル北見」と連携した取組み及び森林ボランティア「オホーツクの会」への活動支援を紹介します。

まず始めに、「ネイパル北見」の職員から、スノーシューの履き方の説明があり、その後、子どもたちはスノーシューの装着に悪戦苦闘していましたが、ボランティアの高校生等に手伝ってもらい履き終え、出発となりました。

森林観察をゲーム感覚で楽しむため、「どきどき！探検タイムビンゴ」として、植物の色や形、手触りを拡大レンズ等を使った観察から自然を感じます。

当日は、「プロペラのよいうなタネ」や「あみだくシのような模様（ササの

生きる工夫を探す、森林観察を担当しました。



拡大レンズを使って樹皮を観察

この「ポンポン山」は、山というより小高い丘のような地形で、硫黄山やかぶと山と並ぶアトサヌプリ火山群の一角で、地面を踏むと中が空洞のように「ポンポン」と音が鳴ることから、そう呼ばれています。

ポンポン山に至るまで

2月19日、森林ボランティア「オホーツクの会」の要請を受け、「冬の自然観察会」の活動を支援しました。

当日は、「オホーツクの会」の会員と公募の参加者を合わせて49名の参加があり、スノーシューを履いて8班で、ポンポン山（弟子屈町川湯）を目指しました。

ボランティア団体の活動支援

「葉」等、森林の面白いものや不思議なものを九つ掲載したところ、子どもたちはビンゴが完成するよう、熱心に森林を観察していました。

また、毛皮をまとったような「キタコブシ」の冬芽、トゲや匂いで動物や虫から身を守るようにする植物の生きるための知恵等を、ガイドからの説明を受けながら1時間30分、所々で蒸気の上がるポンポン山に到着しました。

参加者からは、「森林の清々しい空気と静寂さに癒やされました。」等の感想が寄せられました。



冬の自然観察会での森林散策

の森林散策では、キタキツネ・エゾリス・エゾシカの足跡やフン、キツツキが空けた穴、エゾシカが樹皮を食べた痕等、森林の中の動物たちの営みを感じることができました。